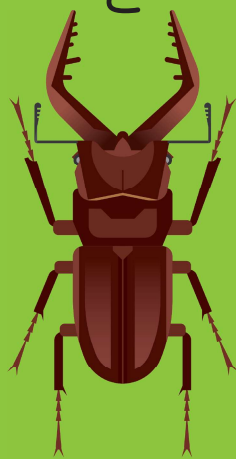


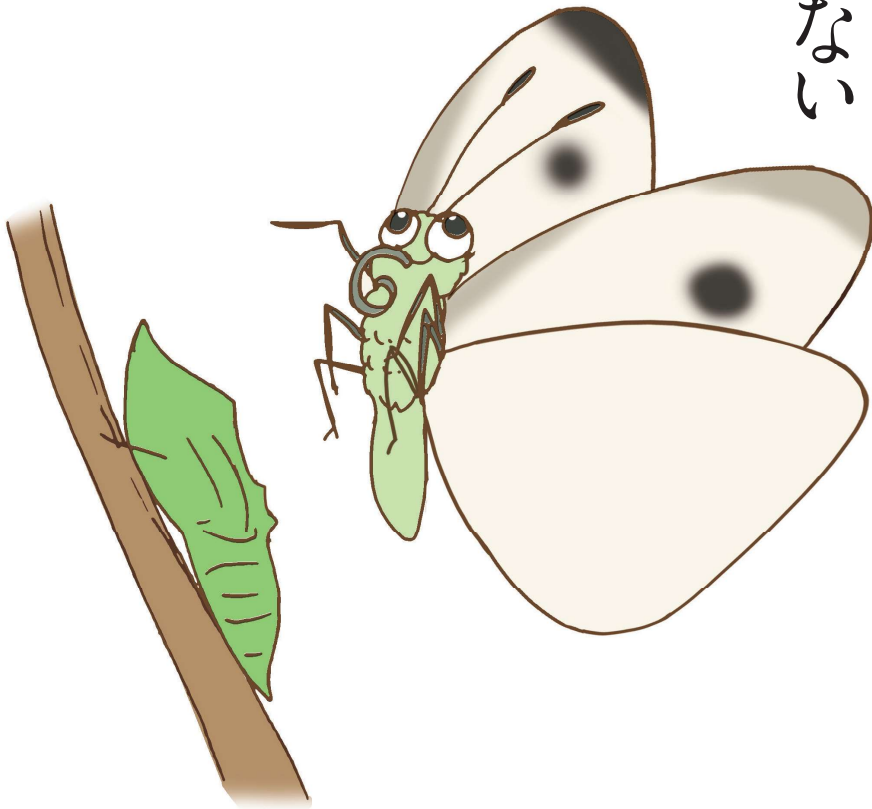
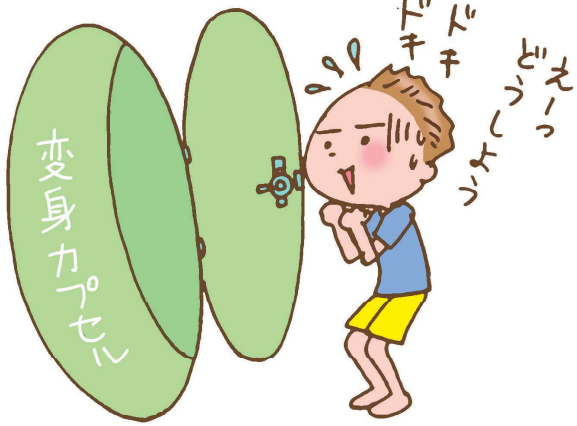
第一章

身近な虫たちの  
生きざまを  
のぞいてみよう

自分自身に関すること



変わる<sup>か</sup>ことをおそれない



モンシロチョウ

シロチョウ科を代表するチョウ。  
紋(黒いはん点)がある白いチョウ  
ウという意味で、幼虫は「青虫」とよばれる。キャベツやダイコンなどアブラナ科の植物をえさにしている。成虫は3～10月に見られ、さなぎで冬を越す。





菜の花が咲けば、モンシロ  
チヨウの季節だ。花から花へと  
ひらひら飛んで、なんだか楽し  
そうだね。

幼虫時代の「青虫」はキャベ  
ツやダイコンの葉を食べて人間  
にいやがられることもあるけれ  
ど、さなぎになったら何も食べ  
ず、じっとして動かない。

おどろくのは、そのあとだ。  
ある日、さなぎの殻を通して、  
黒っぽいはねが見えてくる。

それから、それまでとがって  
いた頭のあたりが割れ、青虫と



モンシロチョウの幼虫(青虫)



モンシロチョウのさなぎ



モンシロチョウの成虫

は似ても似つかない白いチョウ  
がはいだしてくる。  
そしてしばらくすると、しわ  
しわのはねがのびて、どこから  
見てもりっぱなモンシロチョウ  
の成虫になる。もりもり食べ

て、さなぎになって、眠りから  
さめたらチョウになってい  
なんて不思議だね。  
じつは、さなぎの中では、外  
からは想像もできない大きな変  
化が起きている。